

平成 29 年京都舞鶴港港湾統計結果概要

# 京都舞鶴港のコンテナ取扱量は過去最高を記録

商工労働観光部・建設交通部港湾局

## はじめに

港湾調査は、統計法に基づく基幹統計調査（基幹統計である港湾統計を作成するための調査）として、港湾の実態を明らかにし、港湾の開発、利用及び管理に資することを目的として国土交通省が実施しています。

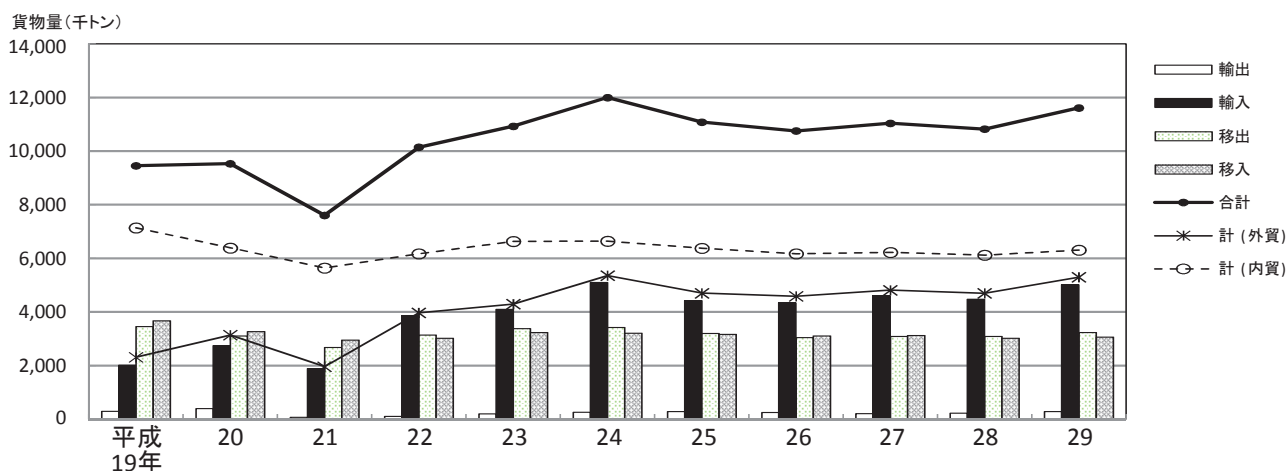
この調査のうち、京都府においては京都舞鶴港、宮津港、久美浜港で集計を行っています。本特集では、関西経済圏における日本海側唯一の国際貿易拠点である京都舞鶴港について、平成 29 年（1 月～12 月）の概要を報告します。

## 1 全体概要

### ○取扱貨物量は 8 年連続で 1000 万トンを超える

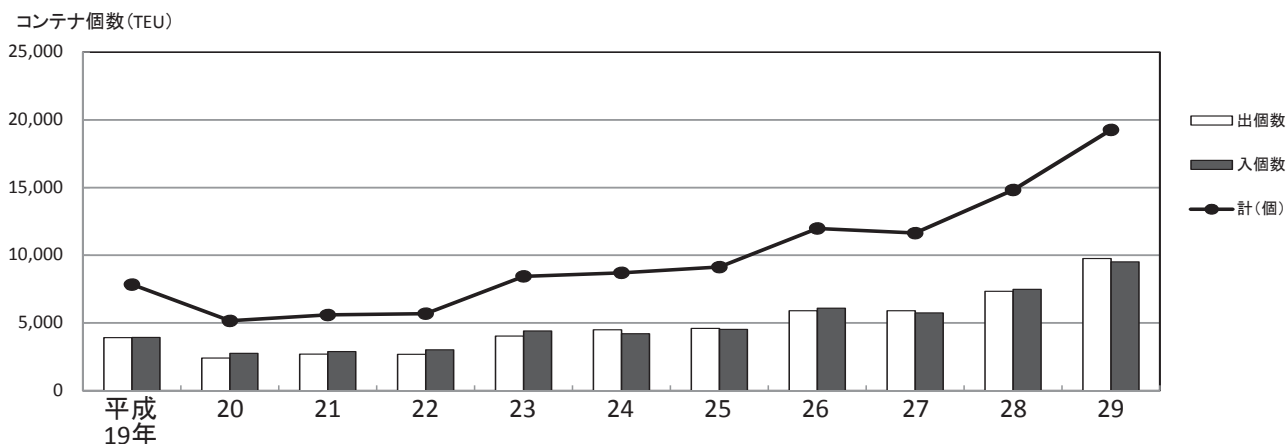
平成 29 年の京都舞鶴港の取扱貨物量は 1161 万トン（8 年連続で 1000 万トン超）で、前年と比べると約 7.3% 増加し、10 年前の平成 19 年と比べると約 22.8% の増加となっています。そのうち輸入の取扱貨物量は 502 万トンで前年と比べると約 12.1% の増加、10 年前と比べると約 148.9% の増加で 2 倍以上となっています。（図 1）

図 1 平成 29 年 京都舞鶴港 取扱貨物量の推移



出典：府港湾局

図 2 平成 29 年 京都舞鶴港 コンテナ取扱貨物量の推移



出典：府港湾局

○コンテナ取扱量は過去最高を記録

また、取扱貨物量のうちコンテナ取扱量は26万トン、1万9272TEU※（空コン含む）で過去最高となっており、前年と比べると約30%の増加となります。コンテナ取扱量は、京都舞鶴港のコンテナターミナルである舞鶴国際ふ頭が平成22年に供用開始して以来、増加傾向にあります。

(図2)

※ TEU…長さ20フィートコンテナを基準(1TEU)とするコンテナの取扱個数の単位

2 取扱品種

○取扱貨物のうち約44%が内航フェリーによる貨物

平成29年の取扱品種の内訳をみると、輸出は完成自動車の10万トン(36.3%)、輸入は石炭の464万トン(92.5%)が最も多くなっています。移出、移入は、いずれも輸送用車両(フェリー貨物)が移出249万トン(76.9%)、移入256万トン(83.6%)と最も多くなっています。(図3)

取扱貨物全体を占める割合としては、上記の内航フェリー貨物が507万トンで約44%となっており最多、次点は石炭で、全体に占める割合は約40%、そして窯業品(主に乾灰)の約4%と続きます。京都舞鶴港の取扱貨物は、舞鶴と小樽を行き来する内航フェリーによる貨物と、火力発電所で使用される石炭の輸入が大きな割合を占めています。

※ 移出：国内の他の地方に物資を送り出すこと  
移入：国内のある地方から物資を運び入れること

3 貿易相手国

○輸出は韓国、輸入はオーストラリアに占める割合が最多

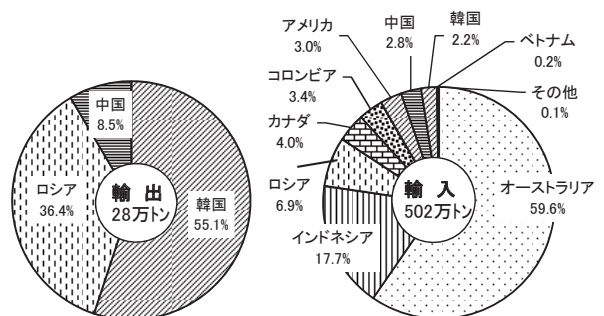
平成29年の国別の内訳をみると、輸出は韓国の16万トン(55.1%)、輸入はオーストラリアの299万トン(59.6%)が最も多くなっています。

(図4)

輸入のうち、オーストラリアから中国までの上位各国は石炭に占める割合が多く、特にコロンビアは100%が石炭の輸入です。韓国からの輸入はほぼ全てがコンテナによる貨物で、金属くずや木製品等がその内訳となっています。

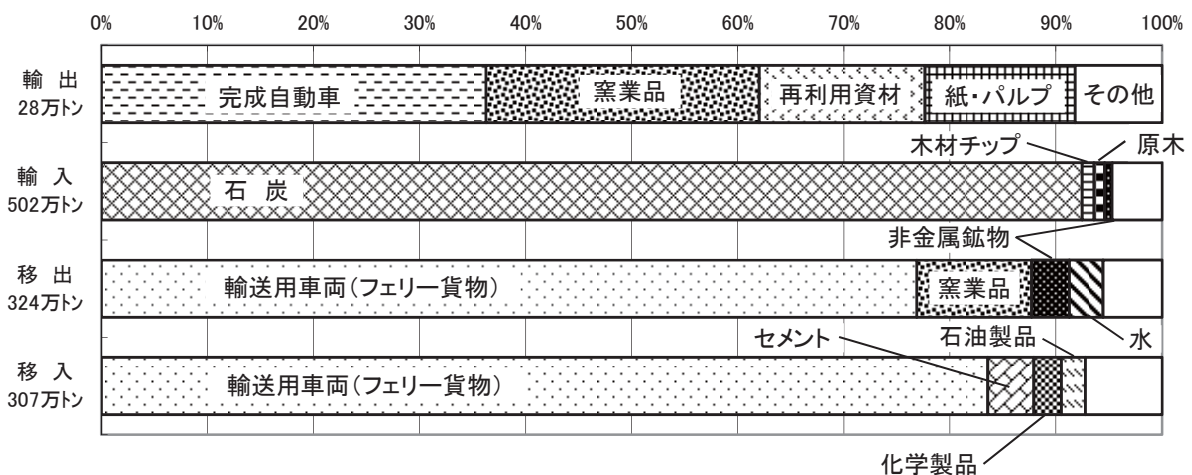
輸出で最も多い韓国は、その約半数がコンテナによる貨物で紙・パルプや再利用資材等、もう半数が乾灰(フライアッシュ)となっており、これは火力発電所で生成される灰です。中国への輸出も多くはコンテナによるもので、その内訳は紙・パルプや再利用資材等となっています。ロシアへの輸出は99%以上が中古自動車となっています。

図4 平成29年 京都舞鶴港 外国貿易取扱貨物 国別割合(輸出・輸入)



出典：府港湾局

図3 平成29年 京都舞鶴港 取扱貨物品種別割合



出典：府港湾局